

中 学 校

平成 2 2 年度

教育研究員研究報告書

音	楽
---	---

東京都教育委員会

目 次

I	研究の概要	1
1	主題設定の理由	1
2	研究構想図	2
II	基礎研究	
1	表現力の定義	3
2	創意工夫と共通事項の関連	3
3	音楽科における言語活動について	5
III	言語活動についての調査	
1	調査概要	6
2	調査結果と考察	7
IV	実践事例 ―検証授業の学習指導案―	
1	創作分野における検証授業	9
2	歌唱分野における検証授業	13
V	成果と課題	16

研究主題 「表現力を伸ばす指導法の工夫－生徒が創意工夫する授業を通して－」

I 研究の概要

1 主題設定の理由

平成20年1月の中央教育審議会の答申では、小学校、中学校及び高等学校を通じた音楽科の改善の基本方針として、「音楽科として育成すべき力」が次のように示されている。

- 音楽のよさや楽しさを感じるとともに、**思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力**
- 音楽と生活とのかかわりに関心をもって、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度
- 音や音楽を知覚し、そのよさや特質を感じ取り、思考・判断する力**
- 鑑賞活動では、音楽の面白さやよさ、美しさを感じ取ることができるようにするとともに、**根拠をもって自分なりに批評することのできるような力**

「特定の課題に関する調査（音楽）調査結果 国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成22年7月（小学校・中学校）」（以下「国政研調査結果」という。）によると、小学校、中学校の児童・生徒の約7、8割が音楽の授業を好きだ、大切だと回答し、音楽の学習は生活を明るく楽しくする、心を豊かにすると回答した児童・生徒は約9割であった。しかし、音楽を聴いて感じ取ったことや自分が考えた表現の工夫などを一定の条件に基づいて記述する問題では、小・中学校ともに正答率が低い傾向が見られた。また、自分が考えた表現の工夫と実際につくったリズムや歌唱実技とが整合していた児童・生徒は、約3、4割であった。そこで「国政研調査結果」では、音楽の表現と鑑賞の学習を充実するために、音楽のよさや美しさ、表現の工夫を、音楽に関する言葉を用いて述べるなど、言語活動を適切に取り入れる指導の工夫や、音楽の要素やそれらの働きを捉え、それを手掛かりにしながら思考・判断し、音楽を豊かに表現したり鑑賞を深めたりするような指導の工夫を求めている。

また、音楽科の目標である、音楽に関する感性を豊かにするためにも、生徒が知覚・感受したことに基づいて思考・判断したことを言葉などで表し、豊かに音楽表現をすることや鑑賞を深めたりする力を伸ばすことが重要である。そのためには知識の量を増やすといったことだけではなく、生徒が創意工夫しながら表現力を高めていく指導を工夫する必要があると考えた。

以上の理由により、本研究主題を「表現力を伸ばす指導法の工夫」と設定した。例えば歌唱指導においては、「フォルテの箇所は強く歌う」という「知識」を得ることも大切である。しかし、生徒自らが創意工夫してたどり着いた「フォルテ」は生徒自身の表現であり、そこに結論づくまでの試行錯誤した過程自体が学習となって次の表現へつながっていくと考える。ここでいう創意工夫とは、生徒それぞれが知覚・感受したものをもとに、自分の思いや意図に合う表現を工夫することである。さらに、これらの活動をくり返し試行錯誤することを意味する。生徒が表現の土台となる基礎的・基本的な知識及び技能を習得していることも重要である。こうして創意工夫を通して生まれた表現からは、「自分たちで創り上げた」といううれしさや楽しさといった生徒の充実感も期待できる。よって、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度の育成にもつながるのではないかと考えた。

そこで、本研究副主題を「生徒が創意工夫する授業を通して」と設定した。そして生徒が創意工夫するには、感じたことやその理由を言葉に表す言語活動の充実が必要である。音楽科における言語活動のあり方についても併せて研究を進めていくこととする。

2 研究構想図

学習指導要領の改訂の背景：変化の激しい社会において、自己責任を果たし、他者と切磋琢磨しつつ一定の役割を果たすためには、基礎的・基本的な技能の習得やそれらを活用し課題を見出し解決するための思考力・判断力・表現力等が必要である。

音楽科として育成すべき力

- ・ 思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力
- ・ 生涯にわたり音楽文化に親しむ態度
- ・ 音や音楽を知覚し、そのよさや特質を感じ取り、思考・判断する力
- ・ 根拠をもって自分なりに批評することのできるような力

生徒の実態

- ・ 音楽が好きだ、大切だと感じている児童生徒は約7～8割
- ・ 音楽を聴いて感じ取ったことや、表現の工夫などを記述することに課題がある。
- ・ 自分が考えた表現の工夫をリズムや歌唱技術で表現することに課題がある。
(平成22年 国政研調査結果より)

目指す生徒像

- * 基礎的・基本的な知識及び技能を習得している生徒
- * 音楽に対する自分の思いやイメージを表現する力を身に付けている生徒
- * 互いの音楽性を認め合い、高め合おうと批評できる生徒
- * 試行錯誤しながらよりよい表現を工夫できる生徒
- * 「自分たちで創り上げた」といううれしさや楽しさなどから充実感をもてる生徒

研究主題：表現力を伸ばす指導法の工夫 ―生徒が創意工夫する授業を通して―

主題設定の理由

学習指導要領には、音楽のよさや美しさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成することが示されている。生徒が思いや意図をもって豊かに音楽表現をするためには、知覚・感受、思考、判断を繰り返し、試行錯誤しながら表現を工夫する活動が重要

- (1) 音楽活動の喜びを味わうとともに、生涯にわたって音楽を親しむ上で必要となる基礎的な能力を養うよう、音楽を形づくっている要素を手掛かりとしながら思考・判断し、音楽を豊かに表現する力や鑑賞を深める力を育成することが大切
- (2) 音楽の基礎的な能力を更に伸ばし、自らの考えを音楽で表現したり、要素の働きによる自分のイメージなどを意識し、音楽の背景にある文化や歴史などを理解しながら鑑賞したりする能力を育成することが大切

仮説

生徒が授業で創意工夫できる指導法を開発し、工夫・改善すれば、表現力が伸びるであろう。

<基礎研究>

- ・ 本研究における表現力の定義
- ・ 生徒が創意工夫できる指導法の工夫改善と共通事項との関連
- ・ 指導領域別の指導例一覧
- ・ 音楽科における言語活動について

<調査研究>

- ・ 言語活動についての調査研究（平成22年8～9月 都内9区市村立中学校音楽科教員44名対象）
- ・ 検証授業＜歌唱・創作領域＞の生徒用ワークシートからデータ抽出及び分析（平成22年10月～12月）

授業研究

<創作分野における検証授業>

- ・ 言語活動から旋律づくりへ
- ・ 共通事項「構成」に視点を当てた指導方法の創意工夫
- ・ 箏（そう）の奏法を生かした創意工夫（都内区・市立中学校にて平成22年10月、12月実施）

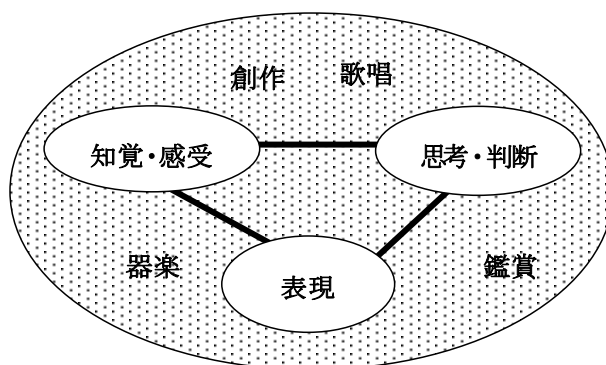
<歌唱分野における検証授業>

- ・ 言語活動から歌唱表現の工夫へ
- ・ 共通事項「リズム」「強弱」に視点を当てた指導方法の創意工夫（都内区立中学校にて平成22年11月実施）

Ⅱ 基礎研究

1 表現力の定義

今回の学習指導要領改訂には、日本の児童・生徒が抱える課題が背景としてある。その中の一つとして、思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題への課題がある。ここでいう表現力とは、一般に課題とされている「自分の思いや考えを、他者に理解できる形で表す力」である。（OECD（経済協力開発機構）のPISA調査など各種の調査による。）生徒がこれからの時代を生きていくための力としてその表現力をつけさせたい。また、「思考・判断・表現」の「表現」は、音楽科学習指導要領の内容に領域として示している「A表現」とは、同一のものではない。更に、音楽教育における表現力には、思考・判断していることと一体的に、それを言葉などで表す力としての表現力と、表現領域において、音楽表現をするための技能を身に付け、それを生かしながら思考・判断したことを音楽で表す力としての表現力の両者がある。ただし、学習活動によっては両者を截然と分けることが難しい場合もあるので、具体的な学習内容に即して考えていく必要がある。



以上のことから、本研究では、表現力を

「感覚的に感じ取った音や音楽の特徴や雰囲気をも自分の考えとして音楽等で表す力」

と定義する。

2 創意工夫と共通事項の関連

創意工夫とは、生徒がよりよい表現を目指して試行錯誤し、自らの考えで表現を工夫していく過程を指す。ただし、この時、単に奇抜さをねらったものや、思いつきの工夫では、表現力の伸長に結びつかない。音楽表現の創意工夫とは「音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている」ということである。

また、共通事項について新しい学習指導要領の解説には、「音楽を形づくっている様々な要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受すること、音楽に関する用語や記号などを音楽活動と関連付けながら理解することなどを具体的に示す。」とあり、表現および鑑賞に関する能力を育成する上で共通に必要なものとして位置づけられている。本研究では、生徒が創意工夫できる授業の構築を目指している。そこで、〔共通事項〕事項アの要素ごとに領域・分野別の生徒が創意工夫できる具体的な指導例を示すマトリックスを開発した。（表1）

ただし、指導要領解説に、「歌唱、器楽、創作、鑑賞の各活動において〔共通事項〕の内容を十分に指導することが重要であり、〔共通事項〕のみを単独で指導するものではない。」とあるように、共通事項が指導の目的とならないようにすることが大切である。

(表1) 要素ごとに領域・分野別に示した生徒が創意工夫できる具体的な指導事例

要素	要素に関する学習の指導例	領域・分野別の具体的な指導事例（生徒が創意工夫する取組）			
		表 現			鑑 賞
		歌 唱	器 楽	創 作	
音色	声や楽器の音色、曲種に応じた発声及び楽器の奏法による様々な音色、それらの組み合わせや変化などが生み出す響きについての指導	・混声合唱と同声合唱の響きの違いについての感受	・アルトリコーダーの演奏方法（タンギングやスラーなど）の違いによる音色の違い ・音板打楽器の演奏で、曲にあったマレットの選択	・シンセサイザーを使った創作（音色を選んだりつくったりするなど）	・魔王における4役歌い分けのための声色の違い ・世界の民族音楽（歌）における発声方法の違い
リズム	拍や拍子、リズム・パターンとその反復や変化、我が国の伝統文化にみられる様々なリズム、間などについての指導	・シンコペーションや付点などリズムの特徴を意識した歌唱 ・弱起の表現	・アルトリコーダーでのリズムリレー（簡単なリズムパターンを全員で途切れなく演奏する。） ・和楽器の演奏を通じた我が国の伝統音楽にみられる様々なリズムや間の理解	・リズムカードを使った創作 ・ボディーパーカッションによる創作 ・太鼓による一定のリズムを伴奏にした即興的なリズムの演奏	・リズムパターンや曲の拍子を回答させる聞き取り問題
速度	ふさわしい速度の設定、速度を保ったり様々に変化させたりすること、緩急の対比、我が国の伝統音楽にみられる序破急などについての指導	・編曲者の異なる合唱曲を用いた速度設定の比較 ・その曲にふさわしいrit.やaccel.の表現	・アルトリコーダー演奏におけるふさわしい演奏速度の工夫 ・rit.やaccel.を取り入れる場所の考察	・創作した曲の緩急の対比	・ベートーヴェン交響曲第5番、指揮者や時代による演奏速度の変化についての考察
旋律	音のつながり方、旋律線のもつ方向性、フレーズ、旋律装飾（装飾音、コブシ、ボルトメント）、旋律が基づくところの音階（我が国や諸外国の様々な音階）、調などについての指導	・二部形式の共通教材を用いた旋律の流れの感受 ・曲の雰囲気にながしい表現方法の工夫	・箏の演奏を通じた平調子をはじめとする日本音階の理解	・5音音階、沖縄の音階に基づく簡単な旋律作り ・副旋律の創作	・同じ5音音階で作られているジャンルの違う音楽（雅楽・演歌・童歌等）を比較聴取
テクスチャ	音や旋律の組み合わせ方、和音や和声、多声的な音楽、我が国の伝統音楽にみられる様々な音と音とのかかわりあいなどについての指導	・校歌等を用いた斉唱と合唱の表現比較 ・「夏の思い出」の伴奏変化（伴奏効果）を意識した表現	・同じ旋律に違う和声の伴奏がついている部分を使う、旋律と和声のかかわりについての理解 ・合奏を通して、和声的な音の重なりと、多声的な音の重なり合いの違いについての感受	・決められた伴奏和音に合った旋律の創作 ・ポリフォニーによる2声の旋律の創作 ・初歩の対位法を活用した旋律づくり	・越天楽における各楽器のかかわりについての学習 ・ベートーヴェン交響曲第5番第3楽章中間部の音の重なりに着目させる学習
強弱	ふさわしい強弱の設定、強弱の対比、音楽の全体や部分における強弱の変化などについての指導	・曲の雰囲気にながしい強弱記号の表現の工夫 ・曲に指定された強弱記号の幅を意識させた表現	・同じ旋律が2回以上出てくる曲の演奏におけるふさわしい強弱の設定 ・同じフォルテでも、楽器の違い、合奏形態の違い（室内楽・ホールでの演奏等）によって強さが違うことについての考察	・ダイナミックスの変化を意識的に取り入れたリズム即興づくり	・ビバルディの春で強弱の対比の学習
形式	二部形式、三部形式、ソナタ形式、我が国や諸外国にみられる様々な楽曲形式などについての指導。なお、我が国の伝統文化にみられる序破急、音頭一同形式など	・楽譜をフレーズごとに切ってパズルにする学習 ・「浜辺の歌」「夏の思い出」「翼をください」の比較を通じた二部形式の理解	・和楽器の演奏による日本の伝統音楽における楽曲形式の体験 ・鑑賞で形式を学んだ曲をアルトリコーダーで演奏することによる理解の深化	・二つの旋律を形式にあわせて変化させる創作	・フーガの形式の特徴を捉える学習
構成	反復、変化、対照などの音楽を構成する原理などについての指導	・二部形式の共通教材を用いた旋律変化の感受	・アルトリコーダーで扱う楽曲を用いての構成についての学習	・コール&レスポンスで「反復」や「変化」「対照」についての理解	・ベートーヴェン交響曲第5番の動機に視点を当てた楽曲分析

3 音楽科における言語活動について

「言語の役割」として、「知的活動(論理や思考)の基盤」「コミュニケーションの基盤」「感性・情緒の基盤」が挙げられる。本来音楽科の学習活動においては、「音や音楽によるコミュニケーション」を中心に学習が成り立っているが、今回の改訂では、その活動の中に「言語活動」を取り入れることにより、「思考力・判断力・表現力」が着実に育成され、結果として「確かな学力」や「生きる力」が育まれると考えられている。

中央教育審議会答申(平成20年1月)で述べられている思考力・判断力・表現力を育成する活動から、音楽科に関連するものを抜粋すると以下のとおりである。

- | |
|--|
| <p>① 体験から感じ取ったことを表現する。
例) 言葉や歌、絵、身体などを用いて表現する。</p> <p>④ 情報を分析・評価し、論述する。
*「情報」を音楽に置き換えると「鑑賞」の内容になる。
例) 自国や他国の歴史・文化・社会などを調べ、分析したことを論述する。</p> <p>⑤ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する。
例) 芸術表現等において構想を練り、創作活動を行い、その結果を評価し、工夫・改善する。</p> <p>⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。
例) 協同してみんなで音楽を作り上げていく。</p> |
|--|

以上のことから、本研究における言語活動を主に以下の5点に分類する。

- | |
|---|
| <p>① 生徒が音楽に関する用語や記号なども含めながら、言葉を用いて音楽の良さや美しさを生み出している様々な要素の働きについて説明すること</p> <p>② 音楽によって呼び起こされる自己のイメージや感情を意識したり、確認したりして、それを比喩的な言葉で表すこと</p> <p>③ 音楽を聴いて、根拠をもって自分なりに批評すること</p> <p>④ 音楽によって表現したいイメージを伝え合ったり、他者の表現や思いに共感したりすること</p> <p>⑤ 歌詞の内容や言葉の特徴を生かして歌ったり、日本語のもつ美しさを味わったりして、言葉と音楽の関係を大切にすること</p> |
|---|

今回の学習指導要領の改訂では、すべての教科において言語活動の充実がうたわれている。新学習指導要領解説の中で言語活動に関わる記述として、「音楽文化についての理解を深める」ことについて「音楽活動はコミュニケーションの観点から、言語活動などとは異なる、音を媒体としたコミュニケーションとしての独自の特質をもっている。このことも音楽文化の理解を深める意義の一つである」とも明記されている。

一方、前述の「国政研調査結果」では、音楽科の学習活動において言語活動が十分に取り入

れられていない現状が分かる。例えば、74.8%の生徒が「授業で音楽を聴くとき、その音楽の良さや美しさを感じるのが好き」と答えているが、「その音楽で感じ取ったことを言葉や文章で表すのが好き」な生徒は36.5%と低い割合である。このような結果には教師側の指導姿勢が深くかかわっていると推察されるが、教員対象の調査においても、「音楽の諸要素やそれらの働きと曲想を結びつけて、言葉で表すことが出来るよう指導を工夫している」教師は50%と半数にとどまっている。

その背景として、音楽の授業は歌ったり演奏したりするなど、活動そのものに学習の意義が見出されてきた歴史がある。また「音楽を味わうのに言葉はいらない。」という声もよく耳にする。しかし、学習指導要領解説では、「鑑賞領域の改善として、『言葉で説明する』、『根拠をもって批評する』などして、音楽のよさや美しさを楽しむこととし、音楽の構造などを根拠として述べつつ、感じ取ったことや考えたことなどを言葉を用いて表す主体的な活動を重視した。」と述べられている。また、前述の共通事項がそうであったように、この「言語活動」も、音楽科の学習活動の目的ではなく手段であることを強調したい。

Ⅲ 言語活動についての調査

1 調査概要

(1) ねらい

生徒の表現力を伸ばす指導法に言語活動を効果的に取り入れるにあたり、中学校の音楽科教員が言語活動を取り入れた指導について、どの程度行っているかを把握するため、本調査を行った。また、言語活動に関わる具体的な指導例についても、あわせて調査した。

(2) 調査時期

平成22年8月～9月実施

(3) 調査対象

都内9区市村立中学校44校

音楽科教員44名を対象に実施

(4) 調査内容

次の5項目について、「A当てはまる Bどちらかという当てはまる Cどちらかという当てはまらない D当てはまらない」の4段階を設定し、回答を集計した。

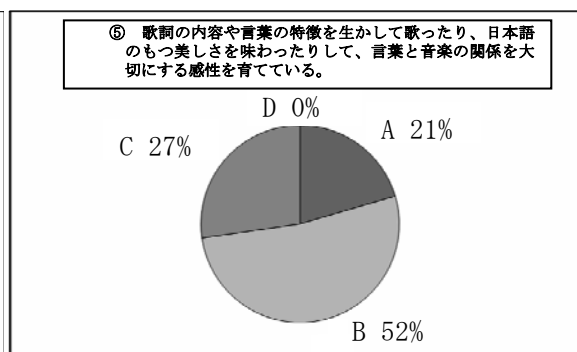
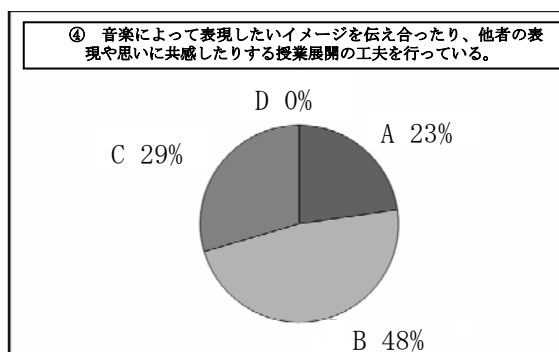
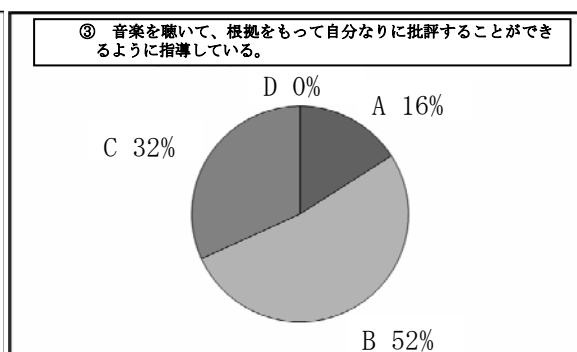
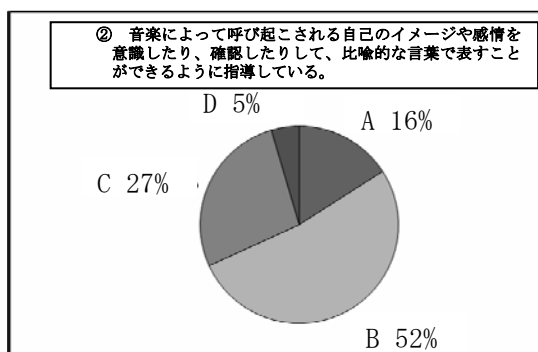
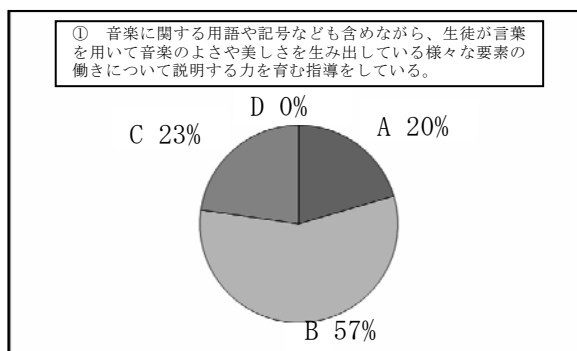
- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">① 音楽に関する用語や記号なども含めながら、生徒が言葉を用いて音楽のよさや美しさを生み出している様々な要素の働きについて説明する力を育む指導をしている。② 音楽によって呼び起こされる自己のイメージや感情を意識したり、確認したりして、比喩的な言葉で表すことができるように指導している。③ 音楽を聴いて、根拠をもって自分なりに批評することができるように指導している。④ 音楽によって表現したいイメージを伝え合ったり、他者の表現や思いに共感したりする授業展開の工夫を行っている。⑤ 歌詞の内容や言葉の特徴を生かして歌ったり、日本語のもつ美しさを味わったりして、言葉と音楽の関係を大切にする感性を育てている。 |
|--|

また、具体的な指導方法について、自由記述により調査した。

2 調査結果と考察

どの項目についても、「A当てはまる」と「Bどちらかというと当てはまる」の合計が 70%以上かそれに近い数値を示しており、全体的には音楽科の教員が言語活動を取り入れた授業を現在でも工夫していることがわかる。全項目を通じて「D当てはまらない」を選択した教員がほとんどいなかったことから、「言語活動」の充実が求められるようになる以前から、各教員は言語活動を取り入れた授業を行ってきたことが推察できる。

次に各項目を詳しく見ていくと、「②音楽によって呼び起こされる自己のイメージや感情を意識したり、確認したりして、比喩的な言葉で表すことができるように指導している。」と、



「③音楽を聴いて、根拠をもって自分なりに批評することができるように指導している。」の項目について、他の質問項目に比べるとやや否定的な回答が多い（Cどちらかというと当てはまらない、D当てはまらない の合計がともに32%）。

この2つの項目に共通するキーワードは「自分」である。音楽の授業において、生徒一人一人に「自分」とその音楽との関係を考えさせ、言葉で表現させるような活動が少ないのではないかと推察できる。また、本来、人それぞれである感受を、一つの「正解」に導いていくような指導が多くなっていることのあらわれとも考えられる。

特に②の項目を生徒の側から考察してみると、「国政研調査結果」では、課題曲の歌詞の内容について、歌詞にふさわしい情景や心情を答える問題の正答率が 84.8%だったのに対し、

歌詞の内容の意味に触れた上で自分自身の解釈を述べることができていたのは 29.1%にとどまった。このことと今回の調査結果を合わせて考えると、感受したことを言葉で表す、「表現力」につなげていく指導のさらなる充実が必要であることがわかる。

自由記述では、言語活動についての具体的な実践例について調査した。（表 2）

（表 2）＜言語活動についての具体的実践例の記述（抜粋）＞調査結果

表現活動について	・歌唱教材の共通教材を用いて歌詞の内容や言葉の特性、イントネーション等を学習させる。 ・合唱コンクールの課題曲、自由曲のイメージや表現の工夫について書かせ、クラスごとにプリントにまとめ、それをもとにクラス独自の工夫を話し合わせ、合唱に生かす。 ・イメージの伝え合い（パート練習など）表現（演奏）の前にまず、言葉で伝える。 ・日本の歌など言葉のアクセントと旋律との関連に気付かせる。
鑑賞活動について	・ヴィヴァルディの「春」の学習で、生徒達が実際に曲を聴いて自分のソネットをつくり発表する活動を行う。 ・1年のはじめに諸要素についての学習を行い（メリーさんの羊）、その後機会あるごとに諸要素を用いて文を書かせる。 ・鑑賞の最後に必ず批評文を書かせる。 ・批評文等で生徒が書いたものを紹介して分析を加える。書き方について指導する。 ・毎時間冒頭の 5 分間は音楽を聴いて（鑑賞）感想を具体的に書く、という活動をする。「鑑賞」の時にはより長く、豊かな言葉・表現で自分の思いをかけるようになってきた。
授業全般について	・諸要素と関連をもたせた「楽曲評価プリント」（自作）を活用して、曲の表現のイメージを考えさせたり、意見の共有を図ったりしている。 ・普段の授業では子供たちが表現方法について話し合う活動を取り入れている。 ・イメージをまとめたり、調べる学習をして、自分の考えを記述させるプリントに取り組ませたりしている。 ・ワークブックに記入させている。 ・感じたことを言葉で表現させて、音楽的用語を使うと、どのような表現になるのかについて指導する。 ・感じたことを発言させるようにしている。 ・なるべく一つの活動の中に、互いに評価し合ったり、それぞれの問題点や課題を出し合って共有する時間を設けている。 ・各学年に「調べる学習」を入れている。童謡やわらべ歌を 1 曲選び、歌詞その他を調べ、その曲の 1 番を暗唱させている。また調べた内容の発表を行わせている。

自由記述では、「生徒から意見を引き出すのが難しくて苦労している」などの悩みや、「言語活動を今後はさらに意識していきたいと思う」という意見も寄せられた。音楽科授業における言語活動は、学習指導要領改訂でクローズアップされる以前から、各教員の潜在的研究テーマ、あるいは課題として存在したことがうかがえる調査結果であった。

Ⅳ 実践事例 ―検証授業の学習指導案―

1 創作分野における検証授業

(1) 題材名「構成要素を活用しながら自分のイメージを表現しよう」(第1学年)

(2) 題材について

創作の活動においては、自分のイメージを音素材の特徴を生かしながら、反復・変化などの構成を工夫して音楽をつくる力を育てることが重要である。また、生徒それぞれが同じ音素材・題材の中でイメージを固め、表現することで相互のコミュニケーションの能力の育成が図られると考える。そこで本題材では【A表現：創作】(第1学年)の指導事項イにある、「表現したいイメージをもち、音素材の特徴を感じ取り、反復、変化、対照などの構成を工夫しながら音楽をつくること」に着眼し、簡単な旋律をつくりながら音楽の構成の原理を知覚・感受し表現する能力を育むことをねらいとした。また、創作の指導内容とともに、〔共通事項〕ア・イにある音色・リズム(間)・旋律(平調子)・構成に指導内容を絞り込み焦点化を図った。

(3) 学習指導要領の指導事項(第1学年)

【A表現：創作】

イ 表現したいイメージをもち、音素材の特徴を感じ取り、反復、変化、対照などの構成を工夫しながら音楽をつくること。

〔共通事項〕

ア 音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受すること。

イ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを表す用語や記号などについて、音楽活動を通して理解すること。

(4) 指導事項から導き出される具体的な指導内容

【A表現：創作】

イ 表現したいイメージをもち、音素材の特徴を感じ取り、構成を工夫しながら音楽をつくる。

〔共通事項〕

音色 リズム(間) 旋律(音階、平調子) 構成

(5) 教材

「さくら」楽譜(教育芸術社「器楽」教科書)

(6) 題材の目標

ア 音素材の響きやリズム(間)、旋律(音階、平調子)に関心をもち、それらを生かして曲づくりをすることに意欲的である。

イ それぞれの「さくら」「春」のイメージから、旋律を作り、それをもとに曲の構成を工夫する。



(7) 題材の評価規準と学習活動における具体的評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
題材の評価規準	音素材の特徴、反復、変化などの構成に関心を持ち、それらを生かし音楽表現を工夫して音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音素材の特徴、反復、変化などの構成を生かすなどして音楽表現を工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。
学習活動における具体的評価規準【評価方法】	箏や平調子の特徴、創作リズムの反復、変化などの構成に関心を持ち、音楽表現を工夫しながら音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。 【観察】	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽で表現したいイメージを持ち、箏や平調子の特徴、反復、変化などの構成を生かすなどして音楽表現を工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。 【演奏・学習カード】	箏や平調子の特徴、反復、変化などの構成を生かした音楽表現をするために必要な技能（箏の基本奏法、記譜の仕方）を身に付けている。 【演奏・学習カード】

※本研究では、平成 24 年度学習指導要領全面実施に向けて評価の観点の新観点で表記した。

(8) 指導と評価の計画（3 時間扱い）

	指導内容 学習活動 ■ねらい○指導内容・学習活動●言語活動	具体的評価規準 【評価方法】	☆指導の工夫点 ◎創意工夫のポイント
第 1 時	■学習のポイントを理解する ○3 時間の学習計画の理解 ●曲づくりのための「さくら」「春」から連想するイメージを固める。 ■イメージを音にするために教師の例を提示する。（範奏） ○学習した奏法の確認を行う。親指の奏法や押し手など ・「さくら」「春」からのイメージを音にする。 ・2 小節の旋律づくりを行う。 観察・援助 （一人 4 分間ずつ交代で楽器を使う。） （記譜方法は、五線譜を使用する。）	【学習カード】 観点ア 【観察】	☆シンキングシートの活用（→ p 11 (9) ワークシートの例） ☆生徒の感性を引き出すことをねらいに、言語を音にするためのヒントを与える。 ◎イメージと旋律の関係  ☆生徒が創作しやすいよう、また記譜しやすいように音符カードを活用する。

第1時	■曲の構成について理解する。 ○既習曲『さくら』で曲の構成を確認する。 ○反復・変化について気付かせる。 ■構成に関心をもち、その特徴を生かした旋律づくりを行う。	【学習カード】 観点イ	☆楽譜を提示する際、曲の構成がわかりやすい様に提示する。 
第2時（本時）	■イメージを音や旋律にあらわす。 前時に作成した2小節の旋律をそれぞれ8小節にする。 ○中間発表 ■反復・変化を工夫して8小節にする。 ・それぞれが作り上げた旋律を聴き、互いにアドバイスをする。（カードに記入した工夫した点が実際音や音楽に反映されているか）アドバイスをカードに記入	観点イ 観点イ 【学習カード】	◎反復や変化させた点を記入する。
第3時	■前回作成したそれぞれの曲を推こうし、発展させる。 ・それぞれ作ったものを相互に聴き合い、発表（個人演奏する。）	【学習カード】 観点ウ	☆互いの評価を書いて、後日それぞれに渡す。

(9) ワークシートの例（検証授業における生徒の記述より抜粋）

創作 ワークシート

今日の授業のポイント

ア. 曲の構成を考えながら創る。

イ. 自分のイメージを旋律にあらわせるように創る。

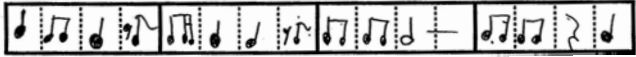
ウ. 創る過程を大切に。そのために、リズムや音程を変えたところを消さないで残しておくこと。

1. 他の人の演奏を聴いて、感じたイメージを書こう

① ゆたかなかんじ、昭和なイメージ
② 春、あたたかいイメージ
③ 花びらが散っているイメージ

2. 完成したら記録しておこう。

弦の名前 十 八 七 六 五 四 三 二 一 由 為 十 九



3. となりの人に聴いてもらってアドバイスをもらおう。

巾のところがリズムよく、やさしい感じがする。

あとリズムもよくてよかった。

サイン

4. アドバイスをもらって、さらに工夫をしたい点をメモしておこう。

もっと出さるような楽な音を覚えてみる。

5. 今日の授業を振り返って、工夫したこと、苦労したことなどを記録しておこう。

音も決まるのに、うろちた。

春のイメージを言語化(シンキングシート)

春

1年組 氏名

① 花	(ピンク、白、黄、赤、紫) いろいろな色がある。
② 桜	花が咲いて、きれい。
③ 梅	白梅、紅梅、黄梅。
④ 桜	花が咲いて、きれい。
⑤ 桜	花が咲いて、きれい。
⑥ 桜	花が咲いて、きれい。
⑦ 桜	花が咲いて、きれい。
⑧ 桜	花が咲いて、きれい。
⑨ 桜	花が咲いて、きれい。
⑩ 桜	花が咲いて、きれい。

⑪ 桜の花見

⑫ 桜の花見

⑬ 桜の花見

⑭ 桜の花見

⑮ 桜の花見

⑯ 桜の花見

⑰ 桜の花見

⑱ 桜の花見

⑲ 桜の花見

⑳ 桜の花見

(10) 本時の展開

ア 本時の目標 曲の構成を考えながら、自分のイメージを音や旋律にして曲づくりを行う。

イ 本時の展開

	指導内容	○学習活動【評価規準】 ●言語活動 ◎創意工夫する学習活動	○指導上の留意点 (☆指導の工夫ポイント)
導入	構成要素の確認	○構成について知覚する。 ○前時までに創作したそれぞれの旋律を練習する。	☆さくらを用いて復習する。 (資料の提示) ○前時までに作りあがっていないものは、ここで時間を与える。
展開	構成を工夫した曲づくり 	○前時までにそれぞれが作り上げた簡単な旋律を8小節の曲に拡大していく。 【観点イ】 ◎構成を工夫し、曲づくりを行う。 ○中間発表(数名) 曲の構成とイメージが旋律にあらわれているか、中間発表で共有する。 ●他の生徒の発表を聴いて、構成やイメージについての感想を記入する。 ◎曲の構成とイメージの両方の学習ポイントを満たすような旋律づくりをする。	○自らが表現しようとするように助言する。 ○適度に奏法を用いることを助言する。 ○つながりや終止に不自然さがあった場合には、助言をする。 ☆発表に対してのまとめを評価する。 (ホワイトボードを活用して、構成とイメージそれぞれ、どう良かったのかをコメントする。)
まとめ	本時のまとめ	●それぞれ作り上げたものを二人一組で聴き合いアドバイスし合う。 ○アドバイスを記入 【観点イ】 ○本時の自己評価を行う。	○自分なりのイメージをもとにして工夫できたか振り返らせる。 ○自分のイメージが、人に(この場合はペア)伝わっているかどうか。

2 歌唱分野における検証授業

(1) 題材名

「歌詞と楽曲の関係から表現を工夫しよう」(第1学年)

(2) 題材について

学習指導要領における第1学年の目標には「創意工夫して表現する能力を育てる」という項目がある。この「創意工夫して表現する能力」とは、音や音楽に対するイメージを膨らませ自分なりの意図をもち試行錯誤して表現する能力である。音楽に対するイメージは様々な要素からもつことができるが、歌唱表現においては、歌詞と楽曲の関係を生徒自身が発見し、よりよい表現に結びつけていく能力の育成が重要である。そこで、本題材は、【A表現(1)歌唱活動】(第1学年)の指導事項アにある「歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌うこと」に着眼し、歌詞の理解を通じた指導を工夫することで、生徒が自らよりよい表現を工夫する能力を育むことをねらいとした。そのために、6、7人の少人数グループでの活動に、表現の工夫をしやすい活動環境を求めた。また、歌唱の指導内容とともに、〔共通事項〕の音色、リズム、旋律、強弱に指導内容を絞り込み、焦点化を図った。

(3) 学習指導要領の指導事項(第1学年)

【A表現：(1)歌唱】

ア 歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌うこと。

〔共通事項〕

ア 音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受すること。

イ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを表す用語や記号などについて、音楽活動を通して理解すること。

(4) 指導事項から導き出される具体的な指導内容

【A表現：(1)歌唱】

ア 各自が感じ取った歌詞の内容や曲想(シンコペーションのリズムなど)をもとに表現を工夫して歌う。

〔共通事項〕音色 リズム 旋律 強弱



(5) 教材

「今、ここに」 滝口亮介作詞・作曲(教育出版「中学音楽1 音楽のおくりもの」より)

(6) 題材の目標

基礎的な歌唱の技能を身に付け、歌詞の内容と楽曲の特徴(シンコペーションのリズムなど)を生かした表現を工夫する。

(7) 題材の評価規準と学習活動における具体的評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
題材の評価規準	曲の内容や曲想に関心を持ち、それらを生かし、音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取るなどして音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。

の学習活動における評価方法	歌詞の言葉の意味、歌詞が表す心情や曲想に関心をもち、音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 【観察・学習カード】	音色、リズム、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、歌詞の内容や曲想を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 【学習カード・演奏・発表】	歌詞の内容や曲想を生かした音楽表現をするために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方の技能を身に付けて歌っている。 【演奏】
----------------------	--	--	---

(8) 題材の指導計画と評価計画（2時間扱い）

	指導内容 学習活動 ■ねらい ○指導内容・学習活動 ●言語活動	具体的評価規準 【評価方法】	☆指導の工夫点 ◎創意工夫のポイント
第1時 (本時)	■歌詞の内容を理解し、正確な音程とリズムで歌唱する。 ○歌詞を通したイメージの共有 ●歌詞から受けた曲のイメージを、自分の言葉でまとめ、グループで共有して、表現の土台（テーマ）を定める。 ○基本的な歌唱表現の練習 - 歌詞の内容を確認し、旋律を歌唱する。 - 正しい姿勢で、旋律のリズムや英語の発音に気を付けて表現する。 - 母音を意識した口の開け方、鼻濁音などを理解して表現する。 ○リズムを生かした表現 - シンコペーションを理解し、前半部分の表現を工夫する。 ●表現の工夫を「ステップ1」としてグループで考える。	観点ア 観点イ 【学習カード】 観点ウ 【演奏】 観点ア 観点イ 【学習カード】 【演奏】	☆個人のイメージをグループに広げて表現のポイントを設定させる。 ◎歌詞にふさわしいテーマ作りをする。 ☆イメージを意識して表現させる。 ◎設定テーマにふさわしい表現を工夫する。 ☆提示の仕方を工夫して学習ポイントを意識させる。 ◎シンコペーションを生かした表現をグループで考え、表現を工夫する。
第2時	■歌詞と楽曲の関係の理解を深めて表現を工夫し、曲想を生かして歌唱する。 ○音楽記号と曲の特徴の理解 - 音楽記号の効果を考えて共通理解し、表現を深める。 - 歌詞の理解を深め、表現の工夫を重ねる。（英語の歌詞の部分を中心に、後半部分の表現を工夫する。） ●表現の工夫を「ステップ2」としてグループで考える。 ○工夫ポイントのまとめ - 表現のテーマ、工夫点をもとにしてグループとしての表現をまとめる。 ●グループのテーマと2つのステップが表現されているか、確認して互いにアドバイスする。	観点ア 観点イ 【学習カード】 【発表】 観点ウ 【演奏】	☆提示の仕方を工夫して学習ポイントを意識させる。 ◎2回の違いを生かした表現を工夫する。 ☆グループ演奏（代表者が聴いてアドバイスする。） ◎イメージした表現になっているか確認し、よりよい表現を目指す。



(9) 本時の展開（全2時間中の第1時間目）

ア 本時のねらい

歌詞の内容を理解し、正確な音程とリズムで歌唱する。

イ 本時の展開

時間	指導内容	○学習活動【評価規準】 ●言語活動 ◎創意工夫する学習活動	指導上の留意点 (☆指導の工夫ポイント)
導入	基本的な歌唱表現	○発声練習	・3パターン程度の発声、および校歌斉唱をテンポよく行う。
展開	歌詞の内容の理解	○歌詞を通したイメージの共有 ・歌詞から受けた楽曲のイメージを個人でまとめる。 【観点ア】【観点イ】 ●各自のイメージを6、7人のグループで共有する。 ◎歌詞から受けたイメージを自分たちの表現のテーマとする。	・教科書を見ながら教師が歌詞を朗読する。 ・学習カードを使用し、時間配分に注意する。 ☆グループごとに表現のテーマを発表、板書し、常に生徒が確認できるようにする。
	正確な音程での歌唱	○基本的な歌唱表現の練習 ・歌詞の内容を踏まえて、旋律を歌唱する。 【観点ウ】	・正しい姿勢と声の方向を意識させる。 ☆グループごとに集まって、音取りをさせ、板書したテーマにも意識をもたせる。
	リズムを生かした表現	○前半部分の表現の工夫 ・シンコペーションを理解する。 【観点イ】 ・リズムの特徴を表現に生かす。 【観点イ】 ●各自のイメージを6、7人のグループで共有する。 ◎リズムの特徴を生かせる歌唱表現を工夫する。	・シンコペーションを使わないパターンと比較させる。 ☆学習カードを活用して特徴を感じ取らせる。 ☆工夫のポイントを「ステップ1」と表現して意識させる。 ☆グループでまとまって練習し、表現の工夫を重ねる。
	まとめの表現	○まとめの表現 ○学習カードによるまとめ	・部分練習での工夫を、曲の流れの中で表現できるように助言する。 ・活動全体を振り返る自己評価を行う。

V 成果と課題

本研究では、生徒の表現力を伸ばすための指導方法を研究し、生徒が創意工夫して、表現力を高めることができたかについて検証授業を実践し、実践結果を分析・考察してきた。その結果から、生徒の表現力を伸ばすための指導法についての成果と課題を次にまとめる。

1 成果

- (1) 創作表現では、箏の特徴、歌唱表現では、楽曲の特徴を生かした指導方法の工夫を図ることで、生徒は、知覚・感受する場面を大切にできるようになり、知覚・感受したことを記譜や言葉などで表すようになった。
- (2) 教師が、指導法について計画と準備を十分に行い、指導目標や指導内容を明確にする指導方法の工夫を図ることで、生徒にとって学ぶべきポイントが分かりやすくなった。
- (3) 教師が、生徒の創意工夫を促すために、授業での生徒の思考のプロセスを順序立てて、教師が授業を展開していくことで、生徒は、より深く表現について考えるようになり、実際に豊かに表現をするようになった。
- (4) 創意工夫するために必要な技能を身に付けることで、より音楽性の高い音楽表現を目指すようになった。その技能を基盤として、音楽の表現について生徒に創意工夫して考えさせる指導方法を取り入れることにより、より豊かに音楽表現するようになった。
- (5) 教師が生徒自身の考えをしっかりとめさせる指導方法の工夫を図ることで、生徒は、自分のイメージが固まり、どのように音楽で表したいかの思いや意図などを創作の記譜や歌唱の表現方法を言葉などで表すようになった。そして、そのイメージを伝えるためによりよい表現をしようと創意工夫するようになった。
- (6) 生徒の考えや表現を発表して交流するなどの指導方法の工夫を図ることで、生徒は、他の人の考え方、感じ方、表現等について試行錯誤しながら学び、より幅広い表現力を身に付けることができた。

2 課題

- (1) 発達段階を踏まえ、各学年の生徒が創意工夫できる授業の指導計画案の作成が課題である。本研究では、第1学年を対象に指導法について研究開発したが、指導のねらいが広がりすぎ、計画どおりにいかないこともあった。学年ごとの指導事項のどこに重点をおくのかを明確にし、3年間を見通した指導計画を開発し、表現力を伸ばしていきたい。
- (2) 音楽を形づくっている諸要素を生徒が試行錯誤しながら見い出せるようなワークシートの構成・内容の開発が必要である。
- (3) 題材の学習展開の最後で「発表会」を指導計画に位置づけ、音楽を表現し合い、聴き合う喜びにあふれる場にし、生涯にわたり音楽を愛好する心情の育成につながるようにする。
- (4) 個人または少人数グループで音楽活動をする場合、生徒の創意工夫を促す個別の指導のあり方や評価の工夫・改善を行うことが必要である。

平成22年度 教育研究員名簿

中 学 校 ・ 音 楽

地区	学 校 名	職名	氏名
新宿区	西戸山中学校	主任教諭	福 田 美 和
杉並区	向陽中学校	主任教諭	鈴 木 勝
杉並区	和田中学校	主任教諭	稲 満 美
青梅市	第一中学校	主任教諭	滝 瀬 いづみ
町田市	金井中学校	主任教諭	◎谷 山 優 司

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部教育開発課 統括指導主事
角 康 宏

平成 22 年度
教育研究員研究報告書
中学校 音 楽

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成 23 年度第 46 号〕
平成 23 年 6 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6836
印刷会社 有限会社 シーダー企画
住 所 東京都新宿区西五軒町 7-10
電話番号 (03) 5228-3451